

◆ 今週のコメント

- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(男性, 10歳未満)あります。平成25年4月1日に五類感染症に追加されて以降, 昨年は15例の報告があり, 本年は第22週までに20例の届出がありました。侵襲性肺炎球菌感染症は, 5歳未満の小児と60歳以上の高齢者に多く発症しており, 年間を通じて注意が必要な疾患のため, ワクチンによる予防が重要となります。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は8.95(367例)となり, 前週 9.63(395例)から減少しましたが, 依然として過去5年平均値を上回る状態が続いています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2.59(106例)となり, 4週連続で増加しており, 過去5年平均値を上回っています。例年, 初夏に患者数の増加がみられます。
- ・ ヘルパンギーナの定点当たり報告数は0.61(25例)となり, 3週連続で増加しており, 過去5年平均値を上回っています。例年, 7月を中心として6～8月に増加しますので, 動向に注意してください。

◆ 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.68(28例)(前週比:2.0)で, 過去5年間の同時期と比較して最も多くなっており, 本年で二番目に多い報告数となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 7例(肺結核 4例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 164例(肺結核 83例, その他結核 35例, 潜在性結核感染者 46例)うち喀痰塗抹陽性 40例】
- ・ 四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 7例】
- ・ 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 20例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

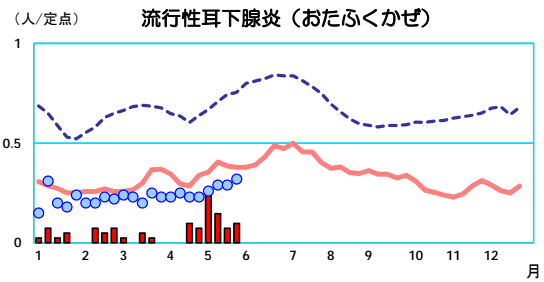
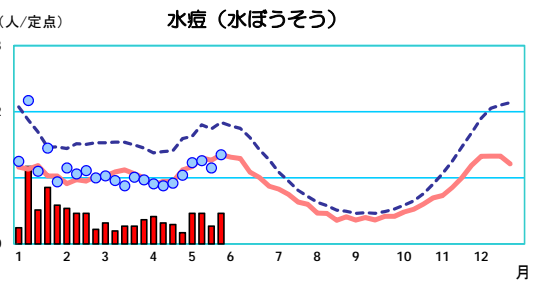
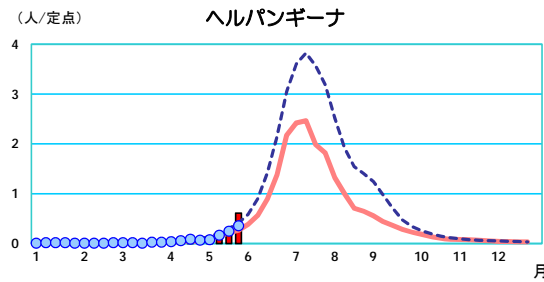
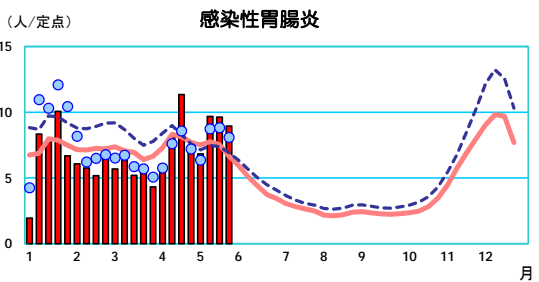
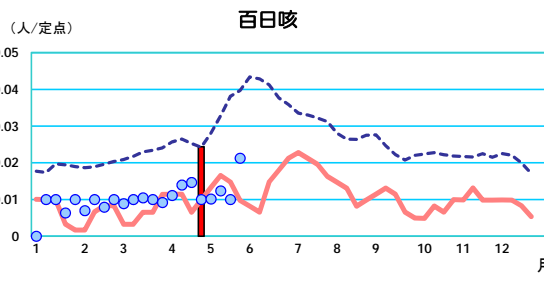
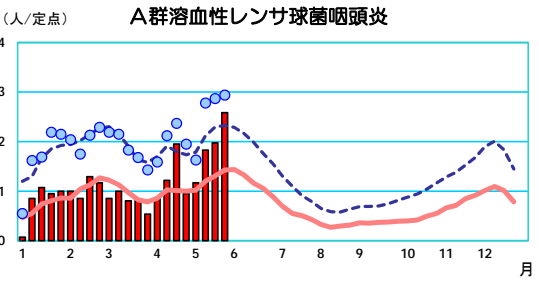
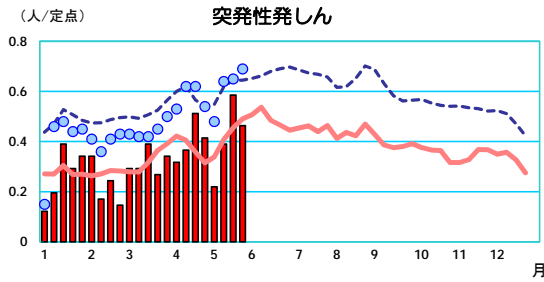
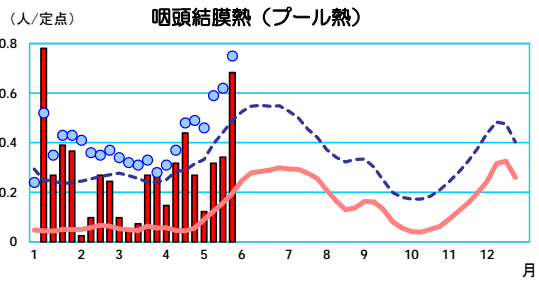
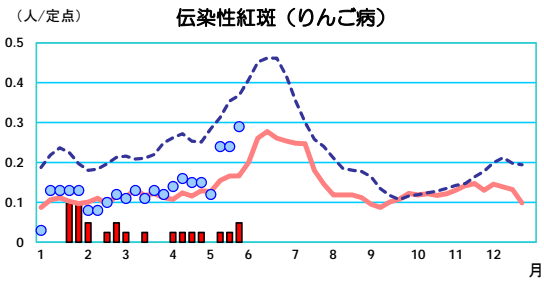
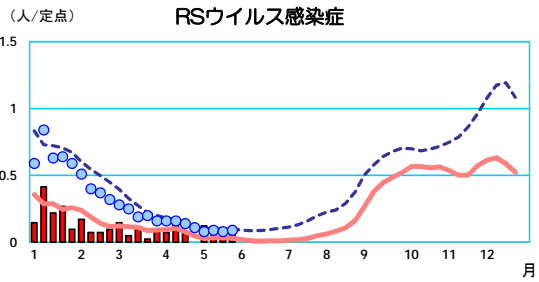
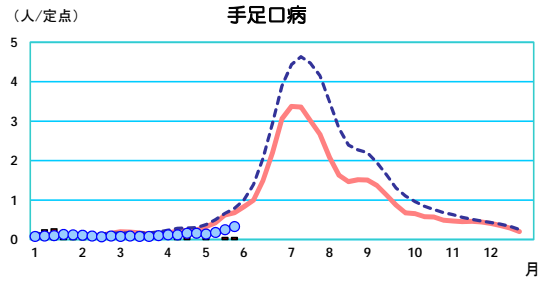
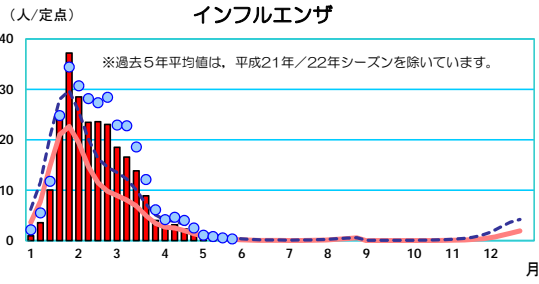
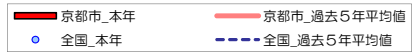
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	0.13	9
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	8.95	367
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.59	106
	③ 咽頭結膜熱	0.68	28
	④ ヘルパンギーナ	0.61	25
	⑤ 水痘	0.46	19
	⑤ 突発性発しん	0.46	19
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

(注) 京都市のデータは, 平成26年6月5日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成26年）



第22週(5月26日～6月1日)トピックス: <咽頭結膜熱>

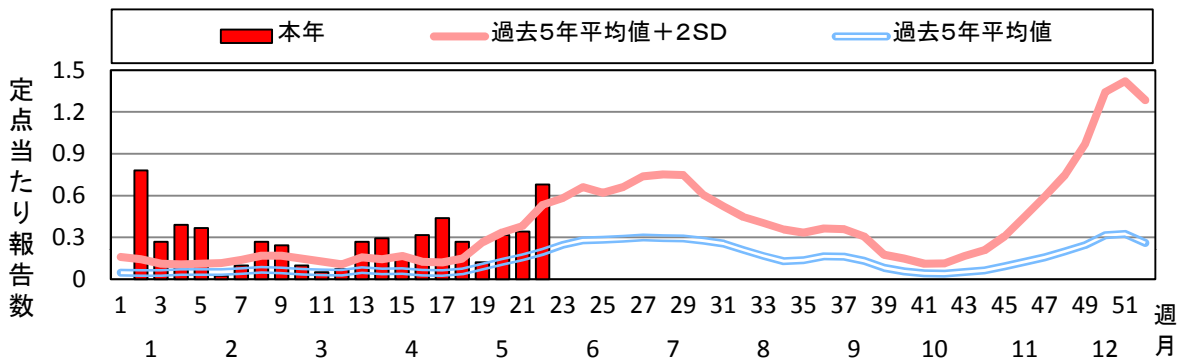
咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.68(28例)(前週比:2.0)で、過去5年間の同時期と比較して最も多くなっており、本年度で二番目に多い報告数となっています。さらに、過去5年間の平均と比較してみると、「過去5年平均値+2SD(*)」を上回っています。これは、過去5年間の発生状況よりもかなり多いことを示しています。

咽頭結膜熱は、例年、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月に流行のピークを迎えます。昨年は6月に流行のピークを迎えた後、いったん落ち着きましたが、11月以降増加に転じ、12月に冬季としては最大の報告数となりました。本年に入ってから、年末年始を含む平成26年第1週を除き、過去5年平均値を上回る状態が続いていたため、第16週及び第18週に当トピックスで取り上げ、注意喚起をしているところです。今後の流行期を控え、さらに増加する可能性がありますので、動向にご注意ください。

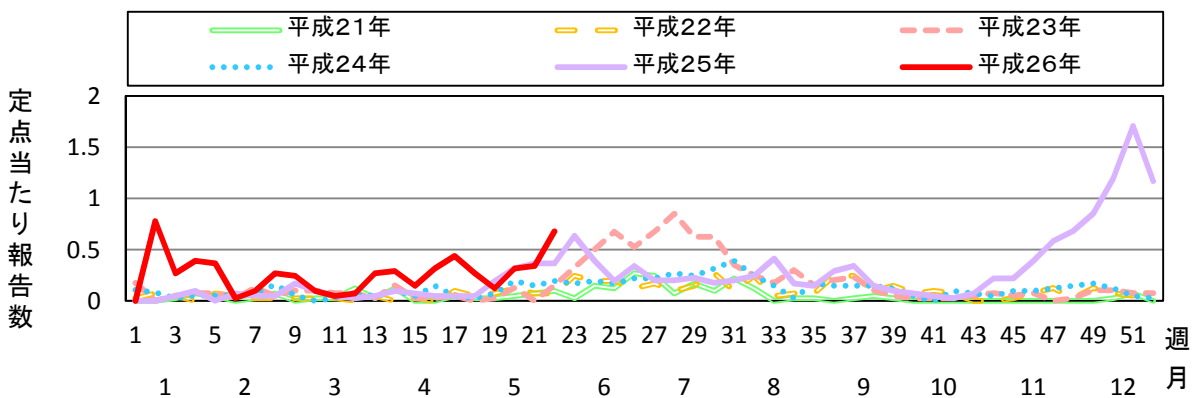
都道府県別では、36都道府県で前週より増加しており、特に、北陸地方(富山・石川・福井)の報告が多くなっています。近畿6府県では、4府県(滋賀県(前週比:3.1)、京都府(前週比:1.3)、大阪府(前週比:1.3)、兵庫県(前週比:1.3))で増加しています。

(*)SDとは標準偏差のことで、データのばらつきの大きさを示す尺度です。下のグラフにおいて、赤の棒グラフ(本年の定点あたり報告数)がピンクのライン(過去5年平均値+2SD)を超えているときには、過去5年間と比較してかなり多いことを意味しています。

本市の定点あたり報告数の推移



本市の過去5年間との週別比較



都道府県別定点あたり報告数の推移

